

5. 対面+ライブ

社会学入門演習 0

キャリア形成プロジェクト 0

基礎演習 2 (中尾ゼミ)

「情報数学」(2 年次)

社会学入門演習 0

担当教員	上林 功
対象	社会学部社会学科 1,2,3,4
受講者数	21名クラス×2(社会学部上田ゼミ合同)

授業の概要	<p>社会学を学ぶ上での基礎として、リーディング、ライティング、プレゼンテーションを実施。</p> <p>課題図書を設定し、それらをもとに要約の作成や読み込みを通じて最終的にプレゼンテーションにまとめる。</p> <p>本講義では全15回のうち最後4回を使って全員のプレゼンテーションを対面とオンラインのハイブリッドで実施した。</p>
ツール	<p><input type="checkbox"/> WebClass <input type="checkbox"/> Webex <input checked="" type="checkbox"/> Zoom <input type="checkbox"/> Mediasite <input type="checkbox"/> YouTube <input type="checkbox"/> LINE <input type="checkbox"/> その他 (プロジェクト利用を想定したパネル表示や画面共有のしやすさ、レコーディング機能、コメント機能の併用など。)</p>
ある1コマの授業プラン	<p>○導入</p> <p>オンライン会議ツールログインの指示:マイクオフとスピーカミュートの指示、オンライン参加者の確認</p> <p>プレゼン担当者の確認、ホワイトボードで提示(ホスト画面でホワイトボード撮影)</p> <p>レコーディング開始</p> <p>○講義</p> <p>プレゼン実施:プレゼン担当は教室前に出てきて発表。音声はホストPCのマイクで確認。</p> <p>教員は離れてホストPCを操作。</p> <p>コメント機能を使って各学生はフィードバック記入。</p> <p>○まとめ</p> <p>プレゼンのフィードバックの紹介。WEBクラスへのレポート提出。</p> <p>レコーディングしたプレゼンの様子をアップ</p>
工夫した点	<p>対面授業のメリットを生かすために、BYODを利用して、場所に依存せず対面とライブ方法をうまくミックスした環境を確立できないかと考えている。ハウリングしないようにするには音声コントロールがポイントとなり、今のところは音声入力を一元化して、対面授業参加学生のマイク・スピーカを無効化することで対応している。</p>
今後の改善点	<p>マイク・スピーカの一元化については、PCとは別のマイク・スピーカを外付けにすることで、対面授業の環境を外部拡張できるように考えている。</p> <p>一方、授業デザインにも課題が残る。体調不良による自宅からの参加を可能にする方法ではあるが、体調不良ということもありビデオオフを認めている。この場合、実際に授業終了後の反応がない場合もあり出席の判断が難しい。課題設定も含めて成績評価との合致を図りたい。</p>

これからオンライン授業に取り組まれる先生方へのメッセージ

総持寺キャンパスはおおむね WIFI 環境が快適で、対面+ライブによるハイブリッドについて工夫しやすい環境となっています。教室利用だけでなく、WIL ホールや屋上の芝生広場など密になりにくい場所も活かせる方法を検討するのも良いかと考えています。

キャリア形成プロジェクト O

担当教員	大串 恵太
対象	基盤教育機構主体的学び科目 1,2,3,4
受講者数	35

授業の概要	5人1組のチームで、プロジェクトの企画実行をおこなう。プロジェクトの進行に合わせて必要な知識を教える。
ツール	<input type="checkbox"/> WebClass <input type="checkbox"/> Webex <input checked="" type="checkbox"/> Zoom <input type="checkbox"/> Mediasite <input type="checkbox"/> YouTube <input type="checkbox"/> LINE <input checked="" type="checkbox"/> その他 (Office365)
ある1コマの授業プラン	<p>○導入 前回授業の振り返りと学生コメントへのフィードバック、今日の授業構成と目標</p> <p>○講義 今日の授業内容についての解説</p> <p>○グループワーク 各グループの活動、適宜アドバイスなど ※学生からの要請に応じて Zoom のブレイクアウトルームを設定</p> <p>○まとめ まとめ、チームでの振り返り、リフレクションシートの記入、次回の授業予告</p>
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoom や Office365 の使い方を教える最初の数回を対面で進めた後は、対面受講か Zoom での参加を随時選べるようにした。春学期のフルオンライン実施の際、PC の操作方法について遠隔でフォローすることが困難であったことから、オンライン実施の土台を整えるまでは対面で実施するのが現実的であると感じたため。実際に春学期と比べて非常にスムーズだった。 ・授業進行は全て Zoom の録画機能で録画し、WebClass で配信した。復習や欠席者のフォローアップのため。 ・遠隔でのチームワーキングには Office365
今後の改善点	対面実施や対面とライブのハイブリッドの際でも、全学生がイヤホン付きマイクを持参すれば、コロナ下でも物理的な「席替え」をせずにグループをシャッフルしてのワークショップが可能であることが分かったため、次年度はシラバスにその点を明記して実施したい。

これからオンライン授業に取り組まれる先生方へのメッセージ

様々なツールが開発されているので、オンラインでできることは色々ありますが、実際の学生を想定すると、シンプルに、ベーシックなツールの活用にも徹することも必要かもしれません。ユーザビリティが極めて高いツールでないと、全員がついてくるのが困難になります。Office365 でギリギリだった印象です。

基礎演習 2 (中尾ゼミ)

担当教員	中尾 元
対象	経営学部経営学科 2,3,4
受講者数	20

授業の概要	心理学の専門書の講読(「ボスだけを見る欧米人 みんなの顔まで見る日本人」と受講生全員のプレゼンテーションにより、主に異文化間心理学のテーマの概説と研究の方法について学ぶ演習である。
ツール	✓ WebClass □ Webex ✓ Zoom □ Mediasite □ YouTube □ LINE □ その他(資料の共有や課題は Webclass で行い、授業の進行やプレゼンは Zoom で行った。)
ある コマの授業プラン	○導入: 前回の振り返りと、最近のニュースからのゼミの文献とのつながり。当該の授業の構成と見通し ○メインのパート: 学生のプレゼン: 3人でそれぞれ単独で行い、30~40分ほど。その後、Zoomのブレイクアウト・セッションでディスカッション、その後、それを踏まえての全体でのディスカッション。 ○まとめ: 最後の10分くらいで、教員からの総括。ミニッツ・ペーパーへの取り組みや、次回予告
工夫した点	受講生のアウトプットを重視した。 例: Webclass 上で、毎回のミニッツ・ペーパーだけでなく、学期中に数回 200 字以上のミニ・レポートを課したことや、学生がスライドの分量で5~6枚、時間的に10~15分ほどのプレゼンを全員が単独で行った、など。教員からのプレゼンの見本の提示や、準備の指導や軌道修正等、パワーポイント資料のやりとりをチャット機能やメールで頻繁に行った。留学生が複数名いたので、彼らのパフォーマンスの良さで日本人学生は良い動機付けになった。
今後の改善点	オンラインだと評価が若干甘めになりがちであった。

これからオンライン授業に取り組まれる先生方へのメッセージ

準備は大変だと思いますが、柔軟に創意工夫をすることで、これまでの対面と違った学生の授業への取り組む姿をみているとアップデートできるかと思っています。

「情報数学」(2年次)

担当教員	中西 通雄
対象	経営学部経営学科 2,3,4
受講者数	12名(最後まで12名がついてきた)

授業の概要	主に iPad を用いて、板書の代わりに用いている。また、iPad で書いたものは、PDF にして WebClass 上に開示した。 秋学期の前半はすべて対面形式で授業を行った。12月になりコロナ感染状況がひどくなってきてからは、対面授業を同時配信するとともに、その録画も提供して復習もできるようにした。
ツール	✓ WebClass □ Webex ✓ Zoom □ Mediasite □ YouTube □ LINE ✓ その他(講義録画を収録した回には、Microsoft Stream にその講義録画を置いた。Microsoft Stream 上で動画のトリミングがしやすいので便利であるが、LTI には対応していないのが残念(ひよっとすると WebClass でも対応させる方法があるのかもしれないが。)
ある コマの授業プラン	そもそもオンライン授業に限らず、だいたいどの授業回でも、前回の振り返り(宿題のフィードバックを含む)をして、今日の内容を講義・演習している。
工夫した点	理解度確認クイズ(小テスト) 授業 3 回に 1 回程度、理解度確認クイズ(小テスト)を実施した。秋学期前半は紙ベースで実施し、解答紙をスキャンして WebClass にアップした。後半はすべて WebClass 上で実施した。
今後の改善点	対面講義をリアルタイムで配信し、かつ、オンデマンド受講にも配慮するのは、教員一人では限界がある。例えば、もし黒板を使いたいとしても、黒板の適切なところにカメラを向けてアップにする人がいない。定点カメラにするとしても、そのセッティングはたいへんである。できれば教室に天吊りにカメラを設置して常時黒板を映せるようにしていただき(黒板の横幅が広いときはカメラ 2 台が必要である)、その画像を PC 画面の画像と混合配置するような装置(例えば ATEM mini Pro など)を教卓に常備してもらえば、随分と楽になるはずである

これからオンライン授業に取り組まれる先生方へのメッセージ
Zoom に関してはいろいろな使い方をしていますので、質問していただければお役にたてることもあるかと思います。